

仮設住宅などでのディアコニア報告書

2017年8月22日 Café de FUKUSHIMA 石川和宏

＊報告期間:2017年7月25日～8月7日(2017年第7次)

(6会場=1仮設住宅 3復興住宅 1自治会 1避難指示解除町村)

◇7月25日(火) 生鮮食品等仕入(COSTCO・ハナマサ) 横浜発 荷物搬入

◇7月26日(水) 荷物整理 仕込み

【1】7月27日(木) 飯舘自治会(9回目)(南相馬市原町区 飯舘村民) 会場:石神生涯学習センター

全村避難の飯舘村民で、南相馬市に避難し、みなし仮設などに住んでおられる方々の自治会。飯舘村は、大部分が今年3月末に避難指示解除になったが、アパート・借家などに避難している飯舘村民は、各地に400名ほどいる。

避難指示解除後4ヶ月になる8月1日現在の村への帰還者は、184世帯(7.2%)・397人(6.6%)である。

隔月の開催を依頼されていて、5月に続き9回目。会場は、原町区の生涯学習センター。

奉仕者は、石川和宏 石川千鶴子

支援の結果

- ・提供したのは、腹話術・DVD(きまろライブ第1集、8時だよ全員集合①-1, 2)・昼食(豚汁)・カフェ(コーヒーとケーキ)
- ・支援者を除く参加者18名(内男性5名) 総参加者27名

皆さんからお聞きしたこと

- ・村には耕作を放棄した田畑が多くあり、その荒廃で周りが影響を受けている。耕作放棄田畑にイノシシが潜んでいて危険な状態になっている。
- ・飯舘村でひまわりを育てている。(切り花にしてたくさん頂いた。)(ひまわりの栽培は、除染で表土を削った農地の栄養分回復と景観保全のために地元農家らの農業復興組合が種蒔きをした。NHKなどの報道より)



【2】7月28日(金) 伊達東仮設住宅(4回目)(伊達市・飯舘村民)

全村避難だった飯舘村(全員が原発被災者)の仮設住宅。昨年9月に続き4回目の訪問。

126戸建設で約67世帯106人が住んでいる。

サマリタンハウスから一般道経由で1時間30分 果樹畑が多い農村にある。

飯舘村役場生活支援課に仲介して戴いた。長谷川花子管理人にお世話になった。

奉仕者は石川和宏 石川千鶴子

支援の結果

提供したのは、腹話術・DVD(コロッケ前半、きみまろライブ第1集)・昼食(豚汁)・カフェ(コーヒーとケーキ)・水出しアイスコーヒー・ビンゴゲーム・庖丁研ぎ。

・支援者を除く参加者20名(内男性1名) 総参加者22名 庖丁研ぎ 9世帯10本

皆さんからお聞きしたこと

《避難生活について》

- ・地元で「飯舘の子は来るな」と言われる。
- ・借り上げ住宅などに住んでいる人は、社協や保健師さんなどに、「飯舘村と書かれた車で来ないで」と言う。近所に避難民であることを知られたくない。私たちは何も悪いことをしていないのに。

《仮設住宅の暮らしについて》

- ・村内20の行政区の人がバラバラに入っている。仲良しになったので、ここを出る時は皆一緒に出ようと話している。

《帰還について》

- ・村にいるイノシシは、人を怖がらない。
- ・村支給の線量計は、他のより測定値が低く出る。
- ・週2回村で診療所が開く。運転免許がない人が多く、そこに通いきれない。
- ・バスも通っているが、広い村内で2ヶ所しか停車しない。
- ・各地区の集会所に移動販売車が来るが、そこまで歩いて行かないと買い物ができない。
- ・4月に飯舘村の小学校(川俣町にある仮設校舎)に入学したのは2人だけ。制服や給食など全部無料にしたのだが。(戻るのは)幼稚園から中学校までで20人しかいない。(飯舘村は、来春から村で学校を再開する。村外の仮設校舎に現在計139人がいる。)
- ・小学5年生になると地元の学校に転校する。そこで友だちを作ってその中学校に入る。
- ・飯舘村の家は、兄弟たちが帰省する家として残したいと思っている。
- ・85歳の人で村に家を再建した人もいる。
- ・朝夕の12号線(県道・中通りから飯舘村を通り浜通りに通じている)の混雑がすごい。
- ・帰っても農作物は作れない。自分たちで食べる分も村で検査をしなければならない。譲ってもならない。

《イベントについて》

- ・今日のおいしい楽しい時のお陰でまた頑張ろうと思えた。頑張るしかないもんね。(80歳のご夫妻)



【3】7月31日(月) 川内村(初回)(川内村・川内村民)

川内村の被災者 双葉郡川内村は、福島原発の西12km～30kmにある。20km圏内は2011年3月12日18時に避難指示が出された。14日から屋内退避、16日に全村避難開始。2012年1月31日に村が帰村宣言、同年8月に損害賠償金の支給が打ち切られた。

川内村は、面積約200km²でその内耕地は約5%、大部分は山林である。

《8月1日現在、村の人口は2,707人(1,252世帯)で、このうち、2181人(912世帯)が村内で生活している。帰還率は80.6%。9歳未満の帰還率は58.4%、10代は44.9%。居住者のうち65歳以上が約4割を占める。(福島民報 2017.06.15)》

《2009年(平成21年)に始まった定額給付金の支給について、川内村は村税滞納者約300人に対し、定額給付金を村税納税に充てるよう求め、応じない場合は支給後に差し押さえる旨の文書を送付した。3月20日には遠藤雄幸村長より文書の撤回が表明されたが、過疎化及び不況等による村税滞納率の高さ、及び村民の経済的な苦境が浮き彫りとなった。ウィキペディアより》

川内村とCafé de FUKUSHIMA Café de FUKUSHIMAは、これまで避難村民が「自主避難者」として住んでいた郡山市の仮設住宅を延べ12回訪問(支援)したが、仮設住宅は今年3月末で閉鎖された。

避難者の皆さまには「川内村に戻っても訪問します」と約束していたので、川内村社会福祉協議会と折衝の末、訪問が実現した。会場は、五社の杜サポートセンター。

川内村社協には、村の広報紙「広報かわうち(7月号)」や村内放送でイベントのPRをして頂いた。当日も職員の方が快くお手伝いをしてくださった。

避難指示が解除になった市町村の中でイベントを開催するのは、南相馬市小高区に続き2ヶ所目。

サマリタンハウスからは、常磐道常磐富岡インターで降り、西に向かう。105km・約1時間30分だが、途中は峠越えの山道で、対向車とすれ違うのが難しい狭い所も少なくない。郡山の仮設に出向くよりは30分ほど近くなる。

今回の奉仕者は、石川和宏 石川千鶴子

支援の結果

- ・提供したのは、腹話術・DVD(コロッケ前半、きみまろライブ第1集)・昼食(豚汁)・カフェ(コーヒーとケーキ)・ビンゴゲーム 子どもの参加者もいたので開始時間前にPPAPや妖怪体操を映写した。
- ・仮設住宅で知り合った方が8名参加した。
- ・米を3kg詰め60袋(180kg)を持参し、参加者に配った。残ったものは、村内で住民を支援しているNPO「昭和横町」(志田代表)に託し、皆さんに配って頂くことにした。米の代金は、用途指定の献金を充当した。米は、仮設住宅で野菜を無料配布しているNPO「福島やさい畑」から購入した。ここは、福島県の被災者と共に農家の支援もしている。米は、福島県産米の価格低下で困っている農家から仕入れたもの。本宮産の精米し立てで、全量検査し放射線量は不検出である。
- ・支援者を除く参加者27名(内男性5名) 総参加者33名
- ・3.11後に村内に完成した障がい者施設からの参加者があった。
- ・旧知の方が「足が悪くて参加できない」ということを知り、豚・ご飯・お菓子・米を持って自宅を訪問した。しばし懇談したが、喜んでいただけた。「次回は工夫して必ず参加したい」とのこと。

皆さんからお聞きしたこと

《避難生活について》

- ・避難直後、郡山の仮設で入った所は、家族5人で8畳間一部屋だった。とても生活できないので、一年後に借り上げに移った。
- ・慣れない土地に避難し、馴れるまで苦しかった。
- ・慣れない土地に行き、うつになりました。



《帰還について》

- ・3月末で仮設のライフラインが切られることが決まり、仮設から出る人が、3月末に集中した。引っ越し業者が無くて困った。
- ・やっと自宅に戻った。今回は震災後10回目の引っ越しだった。

《川内村での暮らしについて》

- ・仮設を出てから、買い物が不便になった。スーパーは、ない。
- ・家は雨漏りし、お風呂も壊れている。米は10キロも配って欲しい。
- ・お買い物が不自由です。独り者なのでこれからが不安です。
- ・友人が遠くなり、買い物も不便だ。
- ・農作業の手がない。草刈りが大変だ。
- ・近所付き合いが少ない。
- ・病院、目の医者で困っている。郡山まで通っている。90歳を越したので、車の運転は止めた。
- ・車がないので不便だ。
- ・仕事が無い。
- ・買い物が不便だ。友だちが遠くなった。



《イベントについて》

- ・楽しかった。豚汁がおいしかった。ビンゴゲームをまた御願ひします。
- ・村内の人との交流ができて良かった。
- ・こんな素晴らしいイベントは、私にはありがたい。第2回目も楽しませてもらいたいと思います。
- ・ご馳走が一杯あったし、きみまろも面白かったです。時々イベントがあればいい。
- ・大変楽しく、またやってください。
- ・以前にも若宮前仮設でいろいろお世話になり、また川内村にも来て頂き、ありがとうございます。
- ・楽しかったです。ご飯とお汁を美味しく頂きました。遠いところからご苦労さんです。また来てください。
- ・皆さんの顔を見られて楽しかった。また来て欲しい。ビンゴの景品を増やして欲しい。
- ・毎度種々お土産を頂いてうれしい。
- ・楽しかった。きみまろのDVDやビンゴゲームがよかった。



川内村の復興住宅

【4】8月1日(火) 西町復興住宅(初回) (南相馬市・福島県民)

南相馬市鹿島区の市街北側の外れにある。原発被災者・避難者向けの復興住宅で50戸あり、昨年末に入居を開始した。スーパーや病院も近くにあり、復興住宅の中では生活環境が整っている。西町仮設住宅とほぼ同じ敷地にある。

住民の出身自治体は、浪江町・大熊町・富岡町・飯館村・南相馬市(小高区)など。

復興住宅に住む被災者・避難者を支援するルートを探し、県の避難地域復興局やNPO「みんぷく」の仲介と協力を得られて実現した。「みんぷく」は、原発被災者の住む復興住宅で、生活拠点コミュニティ形成業務を福島県から受託している。「みんぷく」(南相馬)にチラシ配布や会場設営などに協力して頂いた。

奉仕者 佐々木節子さん(シンガポール在住) 石川和宏 石川千鶴子

支援の結果

- ・提供したのは、腹話術・DVD(コロッケ前半、きみまろライブ第1集)・昼食(豚汁)・カフェ(コーヒーとケーキ)・ビンゴゲーム
- ・支援者を除く参加者7名(内男性3名) 総参加者12名 庖丁研ぎ6世帯6本



皆さんからお聞きしたこと

《避難について》

・浪江は、避難指示はなかった。富岡町は、避難の前夜から避難用バスが用意されていた。大熊町は3月11日の夜に避難用のバスがあった。(浪江町の方)。

《町は国が前夜(11日)のうちに手配していたバス約50台を利用して町民の避難を開始し、12日の午後2時半ごろにはほとんどの町民が町を離れました。第一原発の1号機が水素爆発したのは、それから約1時間後。午後3時36分のことでした。ブログ:「元大熊町職員 企画調整課長(当時)秋本圭吾さんの証言」より》

・「避難しろ」だけで、どこに行けばいいかは知らされなかった。向かった先の津島(*)は、避難者で既に一杯だった。

*津島:浪江町津島 原発の北西約25kmの山間部にある。現在も帰還困難区域(年間50mmSv以上)「ダッシュ村」があった所(報告者注)

- ・とにかく浪江から遠くに行けばいいと思った。津島に行った。
- ・津島に向かう途中で原発の爆発する音を聞いた。最初は車の事故かと思った。一週間後にいわき市に避難した。
- ・当時、双葉町の姉の家に居た。地震で一晩そこで明かした。翌朝放送で避難指示があった。
- ・屋内待機指示が避難指示に変わった。どこへ行けばいいかは言わなかった。何も荷物無しで川俣町に向かった。
- ・避難先での食事は、一人おむすび一個と水だけだった。
- ・避難先で親族(高校生)が原発避難者ということでいじめに遭って殺された。犯人は捕まって12年の刑になった。ほとんど報道はされていない。原発事故さえなければそんなことにはならなかったのに。



《復興住宅の暮らしについて》

- ・ここは、動物を飼っても良い復興住宅だ。
- ・白河の借り上げ住宅に避難していた。
- ・除染作業員の犯罪が多い。新聞にはほとんど出ない。





【5】8月3日(木) 根柄山復興住宅(初回) (二本松市・福島県民)

二本松市油井町にある。JR安達駅の近くで国道4号線沿いの丘陵地帯で民家が点在している。昨年末に入居を開始した。

戸数70戸で入居者は、浪江町民。チラシ配布や会場設営などで「みんぷく」(福島市)に協力して頂いた。二本松にある仮設住宅で何度か訪問しお世話になった旧平石小学校の高野自治会長始め、仮設住宅で知り合った方が何人かおられたので、初訪問という感じがしなかった。



奉仕者 佐々木節子さん(シンガポール在住) 石川和宏 石川千鶴子

支援の結果

- ・提供したのは、腹話術・DVD(コロッケ前半、きみまろライブ第1集)・昼食(豚汁)・カフェ(コーヒーとケーキ)・ビンゴゲーム
- ・支援者を除く参加者18名(内男性5名) 総参加者26名 庖丁研ぎ 3世帯3本
- ・この集会で話をしている内に、お互いに近所だったことが分かり、話が盛り上がった方々がおられた。住民同士の懇親は、イベント開催の目的でもある。少し達成感を味わった。
- ・旧平石小学校仮設には、何度か協力者の皆さんからいただいた和服などの布地をお届けした。「その布地でエコバックを作り、バザーに出した」と参加者の方が報告してくださった。

皆さんからお聞きしたこと

《原発・津波について》

- ・浪江町の請戸(*)に住んでいた。津波で全部流された。
- * 浪江町請戸 浪江町の海沿いの地区で原発から7kmにある。津波で125人が死亡した。3月12日には避難指示があり、「(救助されず)原発周辺の避難区域内の自宅やその周辺で、自力では逃げる事ができず、食事や水をとれないまま餓死した疑いの強い人が少なくとも5人いることが分かりました。」(NHK ニュース 2012.03.05)
- ・原発から5kmの所に居た。原発の煙突が見えた。爆発音を聞いた人はたくさん居る。

《復興住宅の暮らしについて》

- ・請戸の潮の香りが懐かしい。帰りたい。
- ・畑や田んぼがみな懐かしい。
- ・ここでは死にたくない。



- ・本宮の仮設住宅から来た。
- ・仕事に就けない。
- ・交流会を多数御願います。お茶会・物づくりなど。
- ・自動販売機とポストが欲しい。
- ・みんぷくさん、いつも声を掛けて頂いて、元気が出ます。

《帰還について》

- ・帰っても仕事が無いと生きていけない。
- ・防潮堤(工事)で、海が見えなくなってしまった。

《イベントについて》

- ・みんなと顔を合わせられた。楽しかった。
- ・楽しかった。来て良かった。また来たい。
- ・久しぶりに大笑いしました。毎月御願います。
- ・皆さんと、笑って、話ができて、楽しいひとときでした。



【6】8月4日(金) 南町復興住宅(初回) (南相馬市・福島県民)

南相馬市原町区にある原発被災者・避難者向けの復興住宅で、鉄筋コンクリート造5階建て5棟で255戸。南相馬市原町区市外の真ん中にある。昨年末に入居を開始した。住民は、ほとんどが浪江町民で、南相馬市(小高区)や大熊町の方も少し住んでいる。イベント参加者も浪江町が多く、他に小高の方が数名と大熊の方だった。NPO「みんぷく」(南相馬)に仲介して頂き、チラシ配布や会場設営なども手伝って頂いた。また、鶴島会長ご夫妻に準備や片付けの手伝いをして頂いた。

奉仕者 佐々木節子さん(シンガポール在住) 石川和宏 石川千鶴子

支援の結果

- ・提供したのは、腹話術・DVD(コロッケ前半、きみまろライブ第1集)・昼食(豚汁)・カフェ(コーヒーとケーキ)・ビンゴゲーム
- ・支援者を除く参加者29名(内男性3名) 総参加者35名
- ・80歳以上の方が4人輪になって座った。初めてのこのようで、お互いに部屋番号を知らせ合って、「これから仲良くしましょう」と盛り上がっていた。

皆さんからお聞きしたこと

《原発・津波について》

- ・3月12日に突然「逃げろ」と言われた。地震と津波が収まったのになぜ逃げるのか、誰にも知らされなかった。
- ・津島に逃げた。ここに来たのが7回目の転居だ。

- ・避難(原発事故)前の友人知人がどこにいるのか。(避難先を転々し)住所変更する度に、お互いの所在が不明になってしまった。

《復興住宅の暮らしについて》

- ・交通の便が悪い。車がないので。
- ・医者に行く時、タクシーを使わなければならない。
- ・土に触れたい。
- ・車に乗れない。交通の便が悪い。
- ・病院通いが大変だ。
- ・仕事がしたいです。
- ・何をやっていいのかわからない。
- ・もっとイベントをして欲しい。
- ・年金が安くて、喰っていくのにギリギリだ。借金が返せない。



《帰還について》

- ・放射線量が下がったら帰る。
- ・町に店や病院ができれば帰りたい。
- ・帰りたいけど、帰る場所がない。
- ・浪江に戻った友人は、お医者さんも買い物もこちら(原町区)に来る。
- ・水が出なくなったため、どうするか分からない。
- ・放射能がゼロになったら帰る。
- ・津波で古里がなくなった。帰りたくても、帰れない。
- ・家が壊れている。これから解体する。先は、まだ分からない。
- ・80%の確率で生活ができるようになったら、帰還したいと思います。
- ・浪江町に帰りたい。
- ・先が見えないので、何とも言えない。
- ・線量が下がったら元の住所に戻る。



《イベントについて》

- ・今日はデイサービスの日だったが、休んでこっちに来た。そうして本当に良かった。
- ・午前中は用事があって出られずに残念。過去に数回本宮の恵向仮設住宅でお会いしたので、午後駆けつけました。懐かしさが先に立ち、お会いしただけでも満足です。
- ・とても楽しかったです。また参加したいです。
- ・知らない人達でも楽しかった。
- ・ダンス・カラオケがしたい。
- ・とても久しぶりに笑った。何回も来て欲しい。
- ・仕事があって日頃は参加できない。初めての参加。これからも参加したい。仕事をしている人でも参加できるようにお願いしたい。
- ・笑いあり、食事あり、その他イベントありで楽しかった。今後も来てください！
- ・遠い所から感謝します。有り難いの一言です。
- ・久しぶりに笑って本当に楽しかったです。今後ともまた来てもらいたいです。
- ・矢野目(仮設住宅)に居た時に見た以来なので楽しかったです。また来て欲しいです。
- ・昼食まで出して頂き、ビンゴゲームもやり、大変楽しかったです。
- ・いろいろな話ができ良かった。交流が持てるので、機会があれば参加したいです。主催者が一生懸命やっ

てくれるので、幸いです。

- ・他の所の話が聞けたこと。大変な思いをしている人達がいること。同じ思いだ。
- ・大変と思うが、時々来てください。
- ・以前二本松の仮設に来て頂き、おいしいケーキとコーヒーをご馳走になりました。いつも見守っていてくれる人がたくさん居る、有り難いと思っています。また来てください。
- ・とても参考になりました。
- ・楽しかった。こういうの大好き。



【7】まとめ

出会った方々 119名(内男性21名) 総参加者155名 庖丁研ぎ 18世帯19本
ビンゴゲームは、単調な日常生活の中で、よい刺激になっているのを見て取れます。今回も結局6ヶ所全部行いました。出費はかさむのですが、当分続けたいと考えています。

今回も、改革派中部中会の皆さまから手作りクッキーを頂き、これも被災者の皆さんに喜んでもらえました。また、シンガポールから手伝いに来てくださった佐々木節子さんは、ワカメをたくさんの方に配っておられました。

“大震災被害者、社会的結びつきが認知症を緩和”という記事を見ました。

《東日本大震災の津波被害を受けた住民で、震災後に地域社会との結びつきが改善した人は、住宅被害で引き起こされる認知症の悪化が緩和されたとの調査研究結果(読売新聞 2017.08.16)》

被災地でのディアコニアがもたらすよい効果の一端でしょう。

しかし、被災地ディアコニアは、志願(ボランティア)ではなく、「行ってあなたも同じようにしなさい」「Go and do likewise.」(ルカ 10:37)という命令・招集(ドラフト)に応える働きです。常にこの原点にたち、成果・効果を追うのではなく、人の評価や報いからも自由になって、この働きを続けたいと思います。

復興住宅でのイベントについて

福島県の避難者数は約8万人です。この集計には、浪江町、富岡町、大熊町、双葉町、飯舘村の5つの町と村から県内に避難している住民、あわせて2万4000人以上が含まれていないそうです。そして、避難地域の人口は、やがて1/4になると予測されています。

仮設住宅は、現在約6,000戸・12000人、復興住宅は、最終的に約7,697戸、住民数2万人になると言われています。

復興住宅は、入居が始まったばかりです。

先祖代々同じ部落に住んでいた方々は、元々東京や横浜のように「みんながよそから来た人」が住んでいる地域とは「地域(社会)」の捉え方に大きな差があります。福島県民の「閉鎖性」とも言われます。同じ町村でも海側に住む人と山側に住む人では、言葉遣いから違うそうです。

「出身地はごちゃまぜ」の復興住宅に新しいコミュニティを作らないと、住民の孤立は解消できません。イベントは、住民の出会いの場を作り、新しいコミュニティ形成の有力な手段になります

また、原発立地自治体の方もそうでない方も一緒に住んでいます。よく言われる「賠償金格差」もコミュニティ作りの障害になるでしょう。「会って親しくなる」ことで克服するしかありません。

復興住宅の皆さんにお聞きすると、ここを「終の棲家」と考えているのは、約半分です。帰還困難区域の住民は「帰りたくても帰れない」のです。復興住宅に移ったとは言え、まだ多くの皆さんは避難者です。

和服布地の行方

Café de FUKUSHIMA は、これまで協力者の方々から段ボールで十数箱分の和服などの布地を頂きました。仮設住宅では、集会所に皆さんが集まって手芸をされていたので、材料で手伝えることが出来ればと思い集めたものです。今回は、復興住宅などでその行方を聞くことができました。南町復興住宅では、イベントがあることを知った近くの方が、作品を持って見せに来てくださいました(写真)。

協力頂いた方々に、報告とお礼を申し上げます。



【8】今後のスケジュール

◇8月23日～9月2日

- ◇8月25日(金) 南相馬市鹿島区デイサービス(南相馬市鹿島区民) 会場:サポートセンター希望
- ◇8月26日(土) 大野台第8仮設住宅(3回目)(相馬市・浪江町民) 会場:同集会所
- ◇8月28日(月) 東原復興住宅(初回)(郡山市・福島県民) 会場:同集会所
- ◇8月29日(火) 柴宮復興住宅(初回)(郡山市・福島県民) 会場:同集会所
- ◇8月31日(木) 大野台第6仮設住宅(5回目)(相馬市・飯舘村民) 会場:同集会所
- ◇9月1日(金) 吉倉公務員宿舎(福島市・飯舘村民) 会場:吉倉公務員宿舎飯舘村集会所
am 大人向け pm 子ども向け

◇9月20日～9月30日(*未確定)

- ◇9月21日(木) 飯舘自治会(10回目)(南相馬市 飯舘村民) 会場:石神生涯学習センター
- ◇9月22日(金) 北中央復興住宅(福島市・福島県民 64戸 浪江町民が多い)
- ◇9月23日(土) 小高東町復興住宅(南相馬市・小高区民)
- ◇9月25日(月) 鶴見担復興住宅(初回)(郡山市・福島県民) 会場:同集会所
- ◇9月26日(火) 安積復興住宅(初回)(郡山市・福島県民) 会場:同集会所
- ◇9月28日(木) *南相馬市の復興住宅
- ◇9月29日(金) 牛越第1・第2仮設住宅(5回目)(南相馬市・南相馬市民) 会場:牛越第2集会所

◇10月18日～10月28日(*未確定)

- ◇10月20日(金) *上野台・大木戸仮設住宅(伊達市・飯舘村民)
- ◇10月21日(土) 寺内塚合第2仮設住宅(8回目)(南相馬市・南相馬市民) 会場:同集会所
- ◇10月23日(月) 上町復興住宅(2回目)(南相馬市・福島県民) 会場:同集会所
- ◇10月24日(火) *南相馬市小高区社協(南相馬市)
- ◇10月26日(木) 復興住宅(二本松市)
- ◇10月27日(金) 柘形第二市営住宅(本宮市・浪江町民)

◇11月22日～12月2日